

院外茶話

vol.105 平成26年2月1日

子供の頃の夢を追って
夢叶わなかった人がいて
夢が叶った人がいて
その後は・・・

夢の残り



夢の一番人気は野球選手。

「どうなりたい」
「何がしたい」
「何が欲しい」

いろいろな形の夢があるけれど、松坂大輔投手は子供の頃に、100万ドルプレイヤーになりたいと公言して、実際その通りになった。それはもの凄いことだけど、夢は多分そこまで、野球以外に何をするとか、ましてや引退した後の生活など、思っても見なかつただろう。

子供に限らず、人は想像できる範囲を越えて、夢をもつことはできない。

反対に「人が想像することは、必ず実現できる」と、言ったのはジュール・ヴェルヌ。SF作家の父と言われる。

そんな子供が想像する夢とは何か。

どこかの保険会社が行なった調査で、男の子にとって一番の夢は野球選手。ついで学者の先生にサッカー選手。お医者さん。

司法書士とか、何かのコンサルタントといった答えはなくて、これは普通の子供が思いつ

く職業ではない。

女の子の場合は一番が食べ物屋さんで、二番目が看護師さん。あとは幼稚園や学校の先生に、やはりお医者さん。

グルメ番組が増えて、食べ物屋さんを目にする機会が増えたとし、厨房の様子をテレビで見れば、やってみたいと思うのだろう。

病人や子供のケアをする職業も、上位にあるが、これを見て女の子は優しいものと、決めつけるのは危険。勝手な想像をするに、人のケアをするということは、同時に人を仕切ることもあって、女性は本来そういう気質をもっているのではないか。

これは、私個人の家庭的な事情でもありませんが。



女の子に人気は看護師。

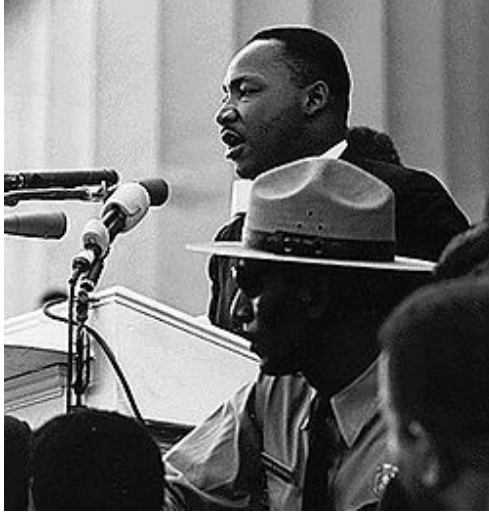
夢を追って少年野球を始める子は多いが、甲子園に出場するチームはほんのわずか。そのほんのわずかのチームから、ほんのわずかの選手がプロ野球の世界に入る。

女の子の食べ物屋さんも楽しそうに見えるけど、仕込みの手間や店舗の家賃を考えると大変なこと。

どれも簡単ではないけれど、「やりたいこと

が見つからない」なんて言っている子供よりは、相当前向きでいい。

人はそれぞれの夢をもつが、現実には直面すれば、その都度夢の修正を繰り返して現在にいたる。こうして妥協を繰り返しながら生きてきた大人が、今になって抱く夢とは何か。



ワシントン大行進のときのキング牧師。

キング牧師の有名な演説があった。

「私には夢がある。かつての奴隷の子孫と、かつて奴隷を所有した者の子孫が、同胞として同じテーブルにつく日が来るという夢が・・・」

iPS 細胞の研究を続ける山中教授にも、日本代表のサッカーチームを率いるザッケローニ監督にも、夢があるだろう。その内容は容易に想像がつくが、それは子供の頃に見た夢と違って、大人が掲げる目標のようなもの。

こういう偉大な意欲を、私は大いに尊敬する。しかし、一般的にはもう少し小ぶりの夢をもつもので、例えば仕事のスキルを上げたいとか、家庭を守るといふような。

年を重ねる毎に現実を知って、大きな夢は縮小ないし変更を余儀なくされるのが普通。

定年を迎えて第二の人生に大きな夢をもつても、新たな技術を習得するには能力も体力も追いつかない。第一残された時間がない。建築家になりたいと思っても、俳優になりたいと思っても、それは無理なのである。

人生の折り返し点を過ぎた人に、先の想いを聞けば、「こうなりたい」というよりも、「こうはなりたくない」という声が聞こえてくる。先の見えた将来は、あまり楽しそうではないし、それより、過去に目を向けて昔話に興じる人が多いかな。

「八月の鯨」は私が最も好きな映画の一つ。それは姉のリビーと妹のセーラが、毎年小さな島の別荘で夏を過ごすという話。二人とも幼い頃から、8月になると入り江にやってくる鯨を見るのが好きだった。

しかし、そんな楽しみも遠い昔のことになって、老いたリビーは失明をした。セーラは第一次世界大戦で夫と死別をして、以来夢を失った二人は、口論を繰り返しながらも助け合って暮らす。

そして二人が最後に見た夢は、大きな見晴らし窓を作ること。失明をしたリビーには無用の工事、無駄な出費だけれど、見晴らし窓ができれば、昔のように鯨が見えるかもしれない。あるいは見える気がするかもしれない。

老いた姉妹にとっては、ほんの少しだけ残った将来に向けて、景色のよい見晴らし窓を作る夢が残った。

そして最後のシーンでは、二人が手をとって、入江に向かう。そこにいたのは鯨ではなく、幼い頃のリビーとセーラであった。



八月の鯨のラストシーン。

老いの気持ちが見事に描かれた、感動的な映画でした。

この映画を撮影した当時、セーラの役を演じたリリアン・ギッシュは 79 才、リビーの役のベティ・デイヴィスはなんと 93 才という年齢であった。

それは老いを経験したことの無い女優が、老け役を演じたものではない。老いた女優の本物の演技だったのです。

この高齢の大女優には、すでに「どうなりたい」とか、「何が欲しい」という夢もなかったと思う。しかしベティは年齢に目を背けることなく、「映画を作る」という大きな夢をもって、実際その通りになった。類まれな偉業だったと思うのです。